

# スポーツ界におけるパワハラ問題に関する一考察

- 女子レスリング問題を対象として -

1190461 木下 稜太

高知工科大学経済・マネジメント学群

## 1. 概要

昨年、スポーツ界でパワハラ問題が相次いだ。その中の代表的な事例として、女子レスリングの問題と日大アメフト部の不正タックル問題が挙げられる。そこで、本研究では、より情報が入手しやすい女子レスリングの問題を対象として、それを監督による問題として捉え、なぜ問題が起こったのか、そのメカニズムを明らかにすることを目的とする。

本研究の結果、栄氏には選手時代、監督時代の実績は十分といえるが、コーチとしての実績が存在しないことが分かった。

## 2. 背景

昨年、スポーツ界では女子レスリングの問題と日大アメフト部の不正タックルの問題という大きな事件が二つ起きた。まず、その二つの問題の概要について述べる。

まず、女子レスリングのパワハラ問題について説明する。全日本レスリング協会強化本部長である栄和人が伊調馨選手にパワハラ行為を行っているという内容の告発状が内閣府に提出され、そのパワハラの実事が認められたという事件である。

次に、日大アメフト部の不正タックル問題について説明する。日本大学と関西学院大学のアメフトの定期戦において、日本大学の選手が不正なタックルを行い、その指示をした監督、コーチによるパワハラ問題と認定された事件である。

## 3. 目的

本研究では、より情報がネット上で入手しやすい女子レスリング問題を対象として、監督による問題として捉え、なぜ問題が起こったのか、そのメカニズムを明らかにすることを目的とする。

## 4. 研究方法

ここで、女子レスリングのパワハラ問題と日大アメフト部の不正タックル問題の詳しい事実経緯を述べる。

2018年5月6日、日本大学と関西学院大学のアメフトの定期戦において、日本大学の選手が悪質なタックルを行った。5月10日、関西学院大学は謝罪を求める厳重抗議を文書で送付。5月19日、内田監督は監督職の辞任を表明。5月22日、タックルを行った選手本人が記者会見を行い、タックルを行ったのは監督・コーチからの指示だったと告白した。5月23日、アメフト部の内田監督とコーチが記者会見を開いたが、タックルの指示に関して、選手と認識がずれていたと釈明し、パワハラの実事を認めなかった。5月29日、関東学生アメフト連盟によってこの問題はパワハラ問題であると認定された。6月11日、日本大学は内田監督を人事部長などの職を解任した。

次に、女子レスリング問題の概要を説明していく。2018年1月18日、レスリングの関係者複数人が弁護士を通して、内閣府に告発状を提出した。その内容は、レスリング協会強化本部長である栄和人が伊調馨選手にパワハラ行為を行っているというものだった。3月1日、レスリング協会と栄和人はパワハラの実事を否定したが、3月6日、緊急理事会でパワハラが認められ、栄和人はレスリング協会強化本部長を辞任した。

本研究ではこの二つの事件を関東学生アメフト連盟と日本レスリング協会の認定に従い、監督が原因である問題として捉える。そして、日大アメフト部の不正タックル問題よりも、より情報が入手しやすい女子レスリングのパワハラ問題を対象とする。

本研究では図1のフレームワークを基に、栄氏の選手時代、監督時代の実績、オリンピックでの実績などからなぜ、パワハラ問題が起きたのかを解明していく。

その文脈の中で、なぜパワハラ問題が起きたのか、その原因を解明する。また、栄氏の実績をより鮮明にするために、その対照として、パワハラ問題も起きず、顕著な実績を挙げている男子卓球を採用する。

本研究を行うに当たって、まずはインターネット上の情報を収集し、必要に応じて、文献調査を行う。

な成績を挙げていない。それが、1980年、日本体育大学2年生時に全日本大学選手権で優勝した。ここで、初めて国内レベルの実績を挙げる。1983年、全日本選手権で初優勝し、国内の頂点を極めた。しかし、ロサンゼルスオリンピックの国内予選では敗退し、代表入りはできなかった。1987年、世界選手権で銅メダルを獲得した。しかし、1988年、ソウルオリンピックに出場するも4回戦敗退した。栄氏の選手時代の実績の特徴として、中学、高校までは顕著な実績を挙げていないが、大学時代から突如として実績を挙げている。つまり、積み上げられた実績が確認できない。

それに対し、倉嶋監督の選手時代の実績を述べる。1992年、全日本ジュニアシングルス3位という成績を取めた。1993年、全日本ジュニアシングルス3位、インターハイ団体優勝した。この頃から、全日本レベルの実績を挙げており、それが、次のように大学になっても変わらない。1995年～1998年、インカレ団体で4連覇した。1997年～1998年、全日本選手権大会シングルス3位という成績を取めた。2001年、第46回世界卓球選手権大会出場したが、顕著な成績を挙げていない。一方、同年の全日本選手権大会では混合ダブルス優勝、シングルス3位という成績を取めた。2002年、全日本選手権大会男子ダブルス優勝、シングルス3位という成績を取めた。2004年、全日本選手権大会男子ダブルス優勝、シングルス3位という成績を取めた。倉嶋監督は栄氏のように五輪への出場は叶っていない。しかし、栄氏の実績に対する顕著な相違は早くから安定した

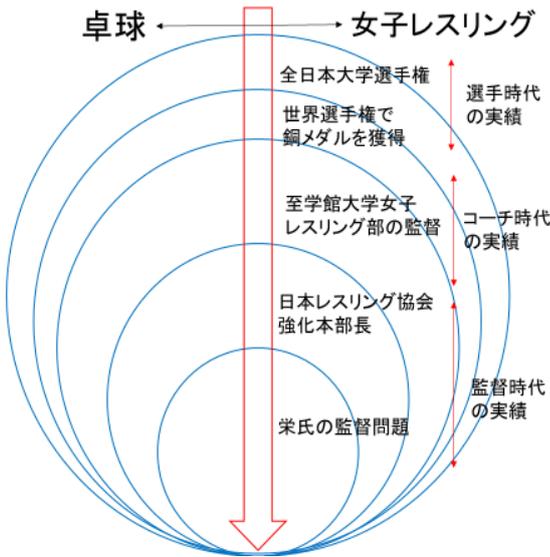


図1、本研究のフレームワーク

## 5. 実績分析

### 5. 1 選手時代

まず、栄氏の実績から述べる。中学、高校時代までは顕著

表2、栄和人、倉嶋洋介の実績



実績を挙げ続けていたことである。このことから、倉嶋監督本人の資質によるところが大きいかもしれないが、システム的なトレーニングなどを受けてきたことが推測される。

## 5. 2 コーチ時代

まずは、栄氏の実績から述べる。1996年、選手を引退した。その後、7年間、中京女子大学附属高等学校で教諭に赴任した。その間、レスリングに関する情報は認められない。そのまま、何の実績もなく、2003年、中京女子大学の監督に就任した。つまり、栄氏はレスリングという組織において、最下層の選手から一気に、何のコーチング経験もなく、より大きな権限を持っている監督に就任している。

それに対し、倉嶋監督の実績を述べる。2006年に選手を引退した。間を置かず、2007年に母校である明治大学のコーチに就任した。その後、2007年～2010年では水谷隼選手が全日本選手権大会でシングルス4連覇をしている。特に、2009年にはインカレで団体優勝をしている。これらの実績を挙げた後、一大学を超えて、2010年に男子ナショナルチーム、ジュニアナショナルチームのコーチに就任した。同年、世界卓球選手権モスクワ大会で団体銅メダルを獲得した。その後も、2011年、世界卓球選手権大会ロッテルダム大会で混合ダブルス銅メダルを獲得した。2012年、世界卓球選手権大会ドルトムント大会で団体銅メダルを獲得した。丹羽孝希選手が世界ジュニア卓球選手権大会でシングルス優勝という世界レベルの顕著な成績を収め続けていた。これらのコーチング経験や実績を踏まえて、その後ついに、男子ナショナルチームの監督に就任する。倉嶋監督は組織の末端である選手から十分にコーチング経験を積み、監督に就任している。

## 5. 3 監督時代

栄氏は、何のコーチング実績もないまま、2003年、中京女子大学(現至学館大学)のレスリング部監督に就任した。その翌年の2004年、全日本女子レスリングヘッドコーチに就任した。このように、一大学の監督から全日本レベルの監督まで、何の実績もなく駆け上がった。これにより、さらに大きな権限を手に入れた。同年の2004年、アテネ五輪で4個のメダル(金メダル2個、銀メダル1個、銅メダル1個)

を獲得した。2008年、北京五輪で4個のメダル(金メダル2個、銀メダル1個、銅メダル1個)を獲得し、これらの実績を踏まえて同年、日本レスリング協会強化本部長に就任した。この後も、2012、2016年とオリンピックでメダルを獲得し続けた。2012年、ロンドン五輪で3個のメダル(金3個)を獲得した。2016年も、リオデジャネイロ五輪で5個のメダル(金4個、銀1個)を獲得し続けた。このように、栄氏のオリンピック4大会での成績は輝かしいものである。

図2はオリンピックの女子レスリングのメダリスト一覧である。名前が赤くなっている人物は、栄氏が監督を務めていた至学館大学出身の選手である。栄氏がヘッドコーチを務めていた2004年以降のオリンピックのメダリスト8人の内、7人が至学館大学出身である。これは、至学館大学に抜きん出て優勝な人材が集まっていたことの証左であると考えられる。このことは、日本のレスリングが栄氏中心に回っていたことを示していると考えられる。日本レスリング強化本部長である栄氏にはオリンピックに関する選手選考が一任されていた。

図2、女子レスリングオリンピックメダル内訳

### 女子レスリングオリンピックメダル内訳

アテネ五輪(2004)	ロンドン五輪(2012)
金メダル…吉田沙保里、伊調馨	金メダル…吉田沙保里、伊調馨、小原日登美
銀メダル…伊調千春	
銅メダル…浜口京子	
北京五輪(2008)	リオデジャネイロ五輪(2016)
金メダル…吉田沙保里、伊調馨	金メダル…伊調馨、登坂絵莉、土性沙羅
銀メダル…伊調千春	川井梨紗子
銅メダル…浜口京子	銀メダル…吉田沙保里

それに対し、倉嶋監督の監督時代の実績について述べる。コーチとしての十分な実績を経て、2012年に卓球男子ナショナルチームの監督に就任した。このように、卓球界では選手、コーチ、監督という階層の違いからくる求められる職能の違いを十分に認識していることが見受けられる。そのため、一気に階層を飛び越えて、登用するといった人事が全く見受けられない。その後、2016年にリオデジャネイロ五

輪で団体銀メダル、個人では水谷隼選手が銅メダルを獲得した。卓球男子の五輪獲得メダルはこの二つが史上初となった。

栄氏、倉嶋監督共に素晴らしい実績を収めている。特に栄氏の監督としての五輪での実績は輝かしいものである。しかし、日本レスリング協会と日本卓球協会の人事の登用の仕方は、まったく対照的である。

## 6. 考察

前章で見た両者の実績、つまり選手、コーチ、監督というのはそのスポーツ界の組織の階層を意味している。組織である以上、階層の違いは求められる職能の違いを意味している。また、特にスポーツ界の組織では一般的に、階層が上になるほど大きな権限を手にする。

それゆえ、民間企業などの組織では、昇格させる場合には十分な時間と経験及び実績を積み上げさせながら行うものである。この点から、栄氏の経歴を評価すると、栄氏は何のコーチング実績もない。しかし、中京女子大学は、栄氏を選手時代の試合実績のみで判断し、監督に登用した。その翌年、何の実績を挙げないまま、中京女子大学を超え、日本レスリング協会の全日本女子ヘッドコーチに登用されている。このことから、レスリング界は、昇格させるときに直近の試合結果を重視する勝利至上主義に陥っていると見受けられる。一方、倉嶋監督は選手を引退した後、コーチとしての実績を十分に積んだ後に、全日本の監督に就任している。組織の階層を一つずつ、経験を積みながら登っている。

栄氏の監督実績に戻ると、上述のように申し分のない実績を挙げながらもオリンピック選手が至学館大学出身の選手による独占状態であった。

以上のように、レスリング界では上述の勝利至上主義といった組織上の問題点があることが分かる。この点が、監督問題の原因であったと考えられる。

## 7. 結論

本研究では、女子レスリングのパワハラ問題がなぜ起こっ

たのか、そのメカニズムを栄氏の実績から解明することを目的としてきた。研究の成果として、今回の女子レスリングの問題はたまたま起こったのではなく、組織上の構造的な問題であることが判明した。このままでは、今後も同様の問題が起こる可能性はある。

一方、今後の課題として、本研究成果に一般性があるか、他のスポーツ界も検証する必要がある。

## 8. 参考文献

・Japan Wrestling Federation-日本レスリング協会公式サイト-JWF

<https://www.japan-wrestling.jp/>

・記者の目：女子レスリングパワハラ問題 指導の透明性、明文化を（毎日新聞 2018年5月18日東京朝刊）

<https://mainichi.jp/articles/20180518/ddm/005/070/003000c>

・公益財団法人日本卓球協会

<http://www.jtta.or.jp/>

・オリンピックのレスリング競技・日本人メダリスト一覧 -Wikipedia

<https://ja.m.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%83%AA%E3%83%B3%E3%83%94%E3%83%83%E3%82%AF%E3%81%AE%E3%83%AC%E3%82%B9%E3%83%AA%E3%83%B3%E3%82%B0%E7%AB%B6%E6%8A%80%E3%83%BB%E6%97%A5%E6%9C%AC%E4%BA%BA%E3%83%A1%E3%83%80%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%88%E4%B8%80%E8%A6%A7>

・リレーインタビュー第10回倉嶋洋介さん（前編） NPO 法人コーチ道

<https://coach-do.com/interview/10-1/>

・栄和人-Wikipedia

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A0%84%E5%92%8C%E4%BA%BA>

・潮 2018年1月号ヒューマンストーリー栄和人 女子レスリング監督 日本女子レスリング界を作り上げた各指導者の素顔、栗野仁雄